

春宵弓張月

後編

六

芥川三郎

^ 13  
3692  
12



門 へ13  
號 3692  
卷 12

曲亭翁原稿 西馬老人綴

乃 滿 人

東京書房

文昇堂熊谷梓

弓張月春之夕榮第廿三編序

夫此策子著作之故西馬翁遺稿を以て假名垣大人が  
校本を此度僕も抄録し遺續を乞ふ。勸諭よまろくわそのな  
るも先師計の二世乃樂亭如此ありといと猶遺る草稿  
縁校せし二拾三篇巻中をて人間萬事此塞翁が孫兒  
の孝子鶴亀二士に出會て暴欲不道の阿公が是迄暮り  
舊惡も善心り變り懺悔譚語を拙き稗史と見侮  
たるを随分己身の御用心あんやぶとんくといふ  
お世話も本町庵の紋切形を受續て。

文久四総

二代の

甲子春

樂亭西馬述

吉亭

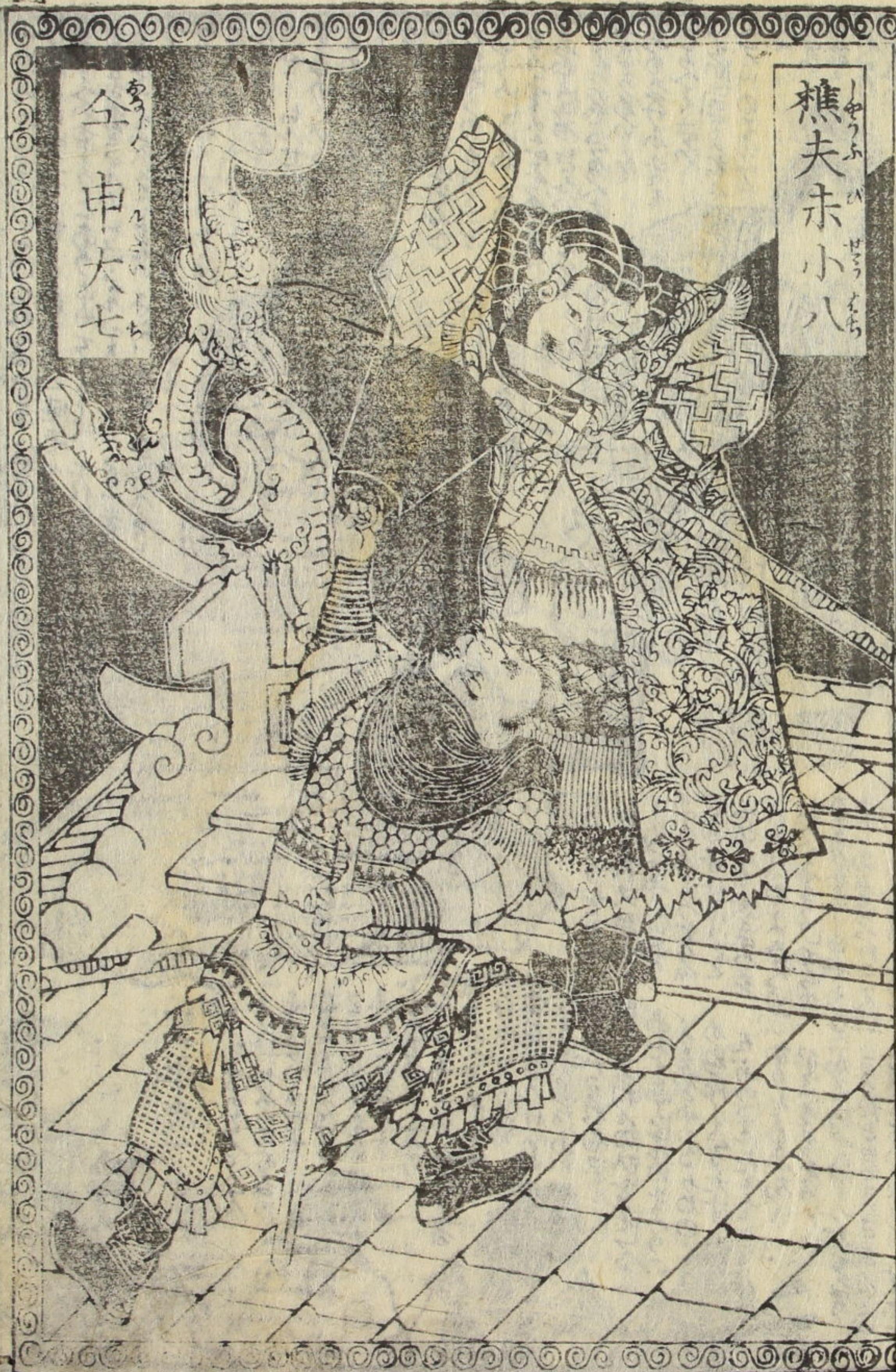
福  
壽  
仙  
祿



為  
御  
天  
舞  
會  
子  
九  
朝  
敵  
男

小  
體  
像  
雲





今申大七

樵夫赤小八



浦漆大將  
安司伯丸

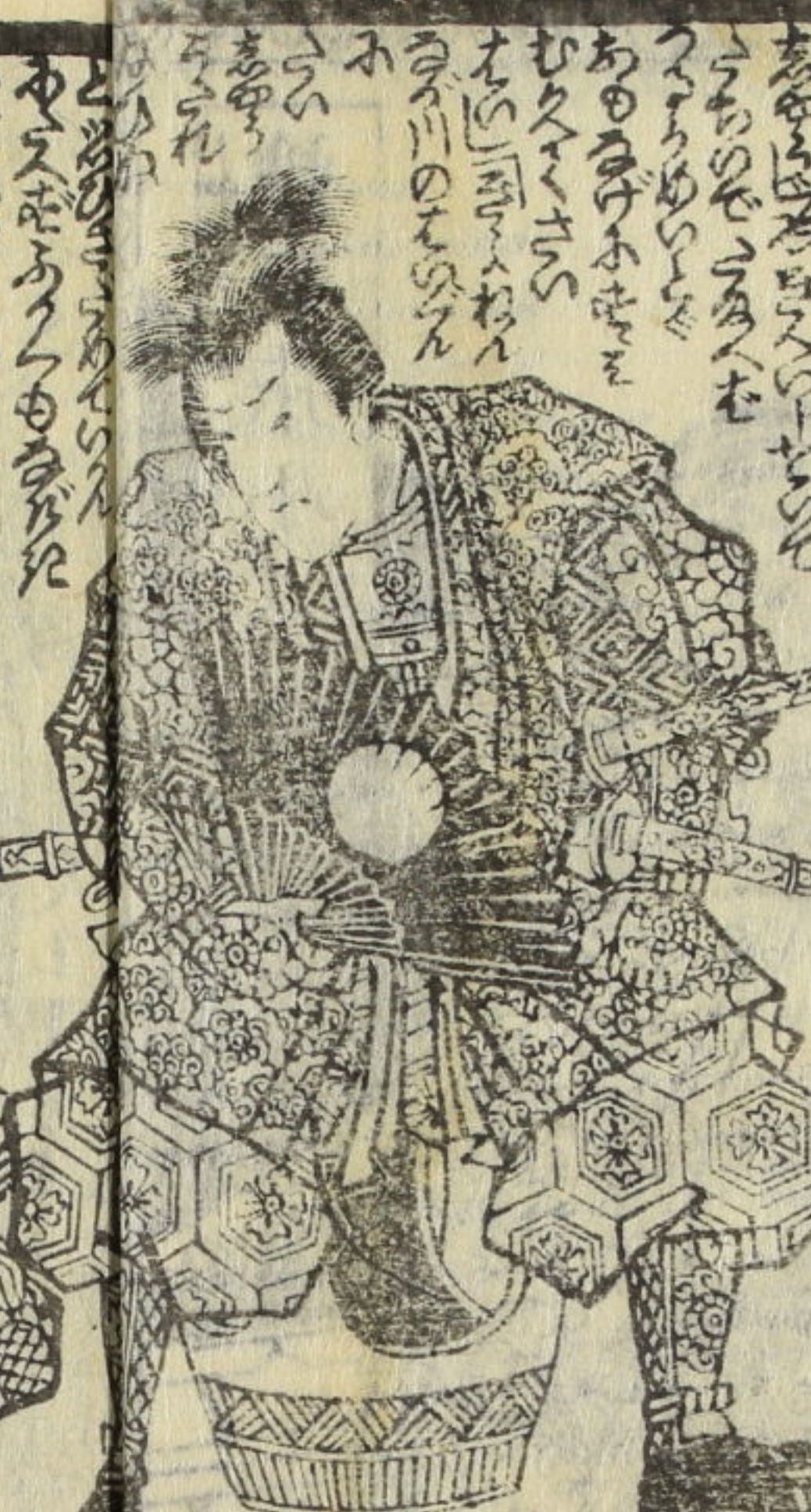
浦漆筑登之  
珠鱗

廿二のころ... 源平物語の一場面... 源氏と平氏の戦い... 源氏の将軍... 平氏の将軍... 源氏の兵士... 平氏の兵士... 源氏の旗... 平氏の旗... 源氏の馬... 平氏の馬... 源氏の鎧... 平氏の鎧... 源氏の刀... 平氏の刀... 源氏の盾... 平氏の盾... 源氏の弓... 平氏の弓... 源氏の矢... 平氏の矢... 源氏の旗... 平氏の旗... 源氏の馬... 平氏の馬... 源氏の鎧... 平氏の鎧... 源氏の刀... 平氏の刀... 源氏の盾... 平氏の盾... 源氏の弓... 平氏の弓... 源氏の矢... 平氏の矢...



白蓮王女

八郎為朝



源天丸

源天丸の物語... 源氏の将軍... 平氏の将軍... 源氏の兵士... 平氏の兵士... 源氏の旗... 平氏の旗... 源氏の馬... 平氏の馬... 源氏の鎧... 平氏の鎧... 源氏の刀... 平氏の刀... 源氏の盾... 平氏の盾... 源氏の弓... 平氏の弓... 源氏の矢... 平氏の矢... 源氏の旗... 平氏の旗... 源氏の馬... 平氏の馬... 源氏の鎧... 平氏の鎧... 源氏の刀... 平氏の刀... 源氏の盾... 平氏の盾... 源氏の弓... 平氏の弓... 源氏の矢... 平氏の矢...



松壽

松壽の物語... 源氏の将軍... 平氏の将軍... 源氏の兵士... 平氏の兵士... 源氏の旗... 平氏の旗... 源氏の馬... 平氏の馬... 源氏の鎧... 平氏の鎧... 源氏の刀... 平氏の刀... 源氏の盾... 平氏の盾... 源氏の弓... 平氏の弓... 源氏の矢... 平氏の矢... 源氏の旗... 平氏の旗... 源氏の馬... 平氏の馬... 源氏の鎧... 平氏の鎧... 源氏の刀... 平氏の刀... 源氏の盾... 平氏の盾... 源氏の弓... 平氏の弓... 源氏の矢... 平氏の矢...

紀平次の物語... 源氏の将軍... 平氏の将軍... 源氏の兵士... 平氏の兵士... 源氏の旗... 平氏の旗... 源氏の馬... 平氏の馬... 源氏の鎧... 平氏の鎧... 源氏の刀... 平氏の刀... 源氏の盾... 平氏の盾... 源氏の弓... 平氏の弓... 源氏の矢... 平氏の矢... 源氏の旗... 平氏の旗... 源氏の馬... 平氏の馬... 源氏の鎧... 平氏の鎧... 源氏の刀... 平氏の刀... 源氏の盾... 平氏の盾... 源氏の弓... 平氏の弓... 源氏の矢... 平氏の矢...

紀平次













珠人

加老

為朝

天丸



珠人

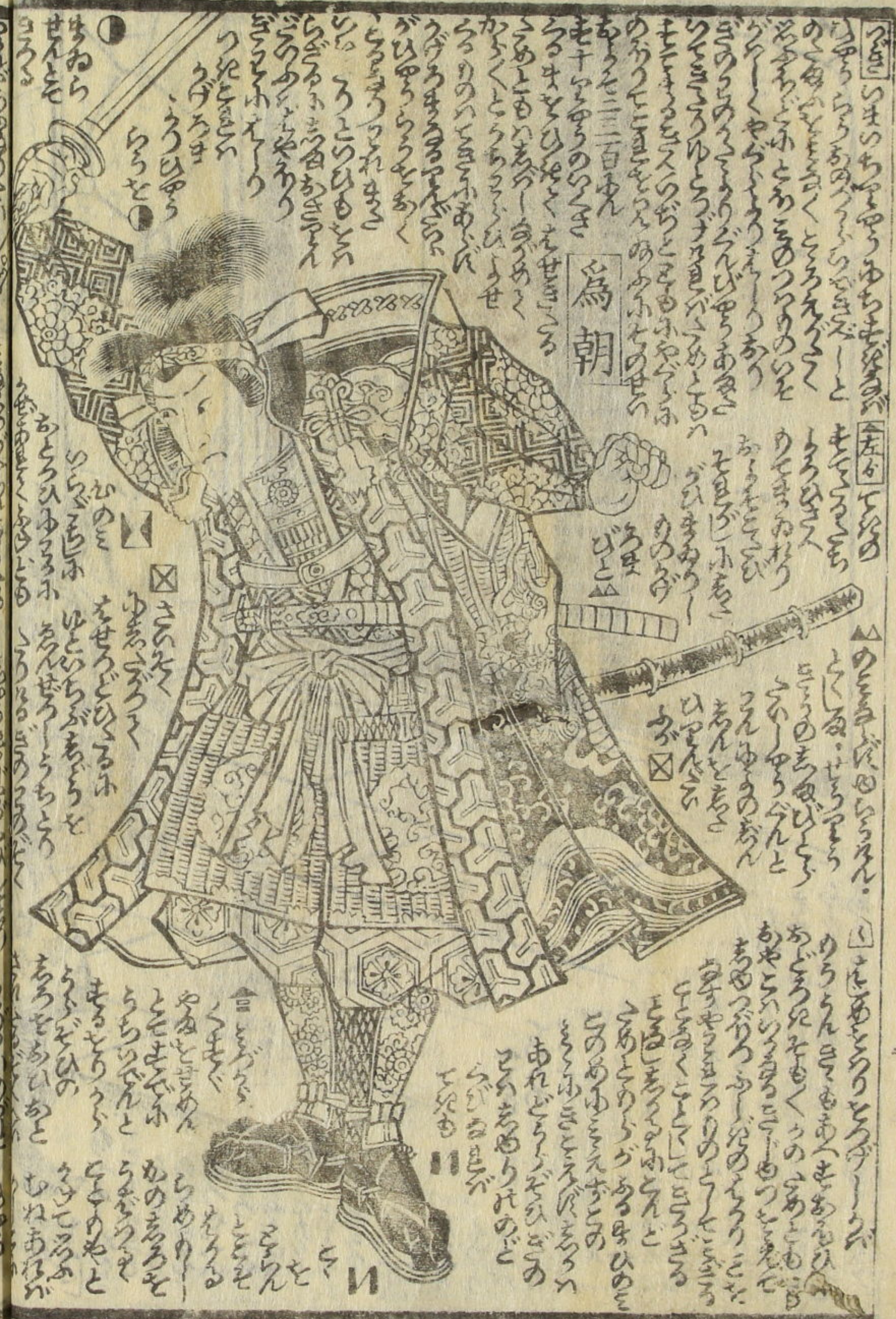
天丸











為朝

ひま

ひま

ひま

ひま



伯紀

Extensive handwritten annotations in kuzushiji script surrounding the illustration of the warrior on the left page.

















一月主人笑幾回

相逢相值且銜杯

眼看春色如流水

今日殘花

昨日開

右唐詩

崔惠堂題

○大島二郎

法師

尊敦  
天王

寄鶴祝

法はしなまきあの  
よのひやいりあむ

彌千代

そええ

田鶴福

のり

右詠

紀於呂香

○足利

義兼



○大島  
太郎丸  
為家



はらからも今朝

終多はらから  
魯文

盛るはら  
唐の  
後



○為朝落胤  
東原源太

源西合同  
次原弟

Vertical columns of handwritten Japanese text on the left side of the top page.

Vertical columns of handwritten Japanese text on the left side of the bottom page.





喜半治

林大夫

日野原

日

ついでに... 王女... 五百ねんぬ...  
あつちの... ちのね...  
あつちの... ちのね...  
あつちの... ちのね...

王女



あつちの... ちのね... ちのね...  
あつちの... ちのね... ちのね...  
あつちの... ちのね... ちのね...

あつちの... ちのね... ちのね...  
あつちの... ちのね... ちのね...  
あつちの... ちのね... ちのね...











# 芳虎畫 魯文校訂

芳虎畫の  
 魯文校訂  
 此の畫は芳虎の  
 筆で書かれたもの  
 である。魯文は  
 此の畫を校訂し  
 た。此の畫は芳虎  
 の筆で書かれた  
 ものである。魯文  
 は此の畫を校訂  
 した。此の畫は  
 芳虎の筆で書か  
 れたものである。  
 魯文は此の畫を  
 校訂した。此の  
 畫は芳虎の筆で  
 書かれたものでは  
 ない。魯文は此  
 の畫を校訂した  
 のである。此の  
 畫は芳虎の筆で  
 書かれたものでは  
 ない。魯文は此  
 の畫を校訂した  
 のである。



芳虎畫の  
 魯文校訂  
 此の畫は芳虎の  
 筆で書かれたもの  
 である。魯文は  
 此の畫を校訂し  
 た。此の畫は芳虎  
 の筆で書かれた  
 ものである。魯文  
 は此の畫を校訂  
 した。此の畫は  
 芳虎の筆で書か  
 れたものである。  
 魯文は此の畫を  
 校訂した。此の  
 畫は芳虎の筆で  
 書かれたものでは  
 ない。魯文は此  
 の畫を校訂した  
 のである。此の  
 畫は芳虎の筆で  
 書かれたものでは  
 ない。魯文は此  
 の畫を校訂した  
 のである。



芳虎畫の  
 魯文校訂  
 此の畫は芳虎の  
 筆で書かれたもの  
 である。魯文は  
 此の畫を校訂し  
 た。此の畫は芳虎  
 の筆で書かれた  
 ものである。魯文  
 は此の畫を校訂  
 した。此の畫は  
 芳虎の筆で書か  
 れたものである。  
 魯文は此の畫を  
 校訂した。此の  
 畫は芳虎の筆で  
 書かれたものでは  
 ない。魯文は此  
 の畫を校訂した  
 のである。此の  
 畫は芳虎の筆で  
 書かれたものでは  
 ない。魯文は此  
 の畫を校訂した  
 のである。

芳虎畫の  
 魯文校訂  
 此の畫は芳虎の  
 筆で書かれたもの  
 である。魯文は  
 此の畫を校訂し  
 た。此の畫は芳虎  
 の筆で書かれた  
 ものである。魯文  
 は此の畫を校訂  
 した。此の畫は  
 芳虎の筆で書か  
 れたものである。  
 魯文は此の畫を  
 校訂した。此の  
 畫は芳虎の筆で  
 書かれたものでは  
 ない。魯文は此  
 の畫を校訂した  
 のである。此の  
 畫は芳虎の筆で  
 書かれたものでは  
 ない。魯文は此  
 の畫を校訂した  
 のである。



つぎ 千代に...



王女

為朝



松寿

あまの... 松寿の... 長生百四... 十一



三

かめ

為朝

喜平治

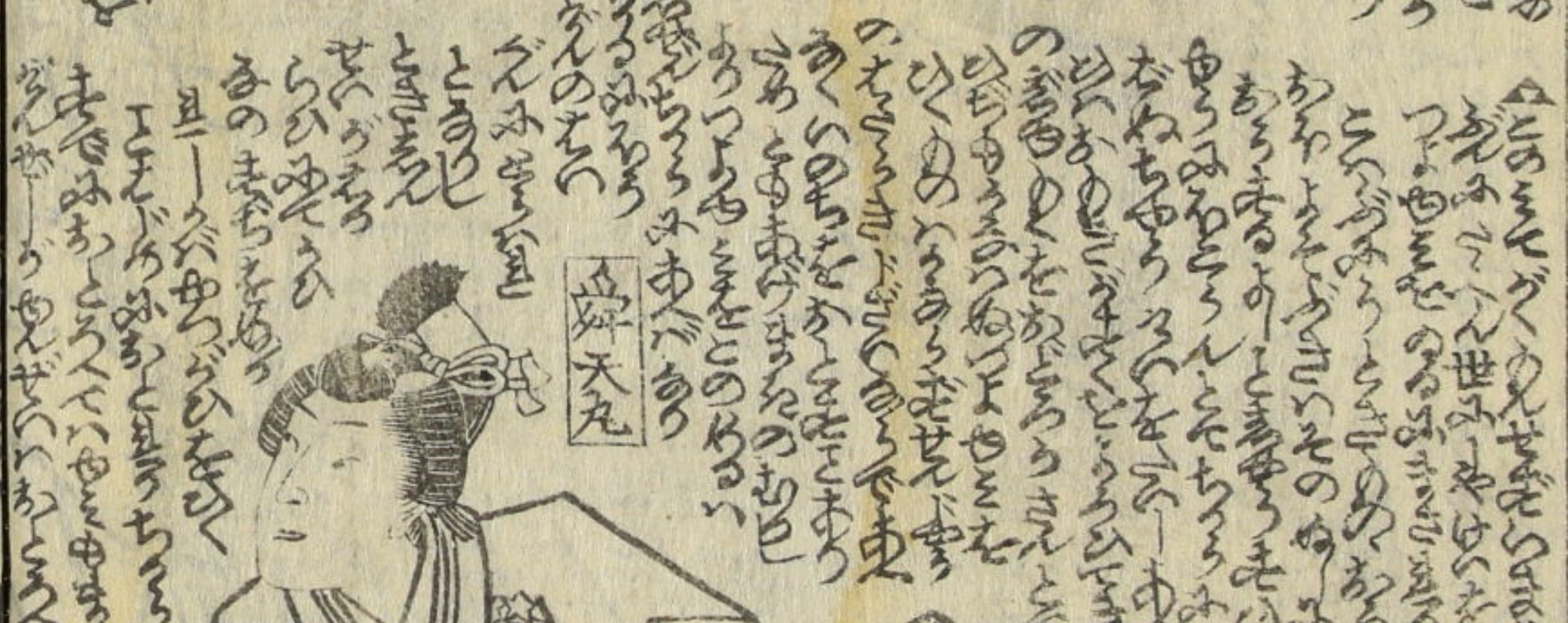
王女

松壽

天九



此の桶は水汲みの  
 桶に用ひたる也  
 桶の形は圓形に  
 造られしなり  
 桶の口は上より  
 下より開きしなり  
 桶の底は平らに  
 造られしなり  
 桶の蓋は木にて  
 造られしなり  
 桶の紐は麻にて  
 造られしなり  
 桶の柄は木にて  
 造られしなり  
 桶の口は上より  
 下より開きしなり  
 桶の底は平らに  
 造られしなり  
 桶の蓋は木にて  
 造られしなり  
 桶の紐は麻にて  
 造られしなり  
 桶の柄は木にて  
 造られしなり



此の女は  
 女御に  
 侍りしなり  
 女御とは  
 女御に  
 侍りしなり  
 女御とは  
 女御に  
 侍りしなり  
 女御とは  
 女御に  
 侍りしなり  
 女御とは  
 女御に  
 侍りしなり  
 女御とは  
 女御に  
 侍りしなり  
 女御とは  
 女御に  
 侍りしなり



此の馬は  
 馬に用ひたる也  
 馬の形は馬に  
 造られしなり  
 馬の口は上より  
 下より開きしなり  
 馬の底は平らに  
 造られしなり  
 馬の蓋は木にて  
 造られしなり  
 馬の紐は麻にて  
 造られしなり  
 馬の柄は木にて  
 造られしなり  
 馬の口は上より  
 下より開きしなり  
 馬の底は平らに  
 造られしなり  
 馬の蓋は木にて  
 造られしなり  
 馬の紐は麻にて  
 造られしなり  
 馬の柄は木にて  
 造られしなり



此の女は  
 女御に  
 侍りしなり  
 女御とは  
 女御に  
 侍りしなり  
 女御とは  
 女御に  
 侍りしなり  
 女御とは  
 女御に  
 侍りしなり  
 女御とは  
 女御に  
 侍りしなり  
 女御とは  
 女御に  
 侍りしなり  
 女御とは  
 女御に  
 侍りしなり

福祿寿仙

福祿寿仙の御姿は、長髯を垂れ、冠を戴き、衣冠を飾り、坐す。其の御姿は、神々しく、人々を驚かす。其の御姿は、神々しく、人々を驚かす。



此の御姿は、神々しく、人々を驚かす。其の御姿は、神々しく、人々を驚かす。其の御姿は、神々しく、人々を驚かす。

為朝

舞天丸

舞天丸の御姿は、冠を戴き、衣冠を飾り、坐す。其の御姿は、神々しく、人々を驚かす。其の御姿は、神々しく、人々を驚かす。



此の御姿は、神々しく、人々を驚かす。其の御姿は、神々しく、人々を驚かす。其の御姿は、神々しく、人々を驚かす。



福祿壽仙  
名トシ  
長生不老  
の神也  
其の神  
の御座り  
の御座り  
の御座り

此の神は  
長生不老  
の神也  
其の神  
の御座り  
の御座り  
の御座り



八丁龜

毛国鶴

松寿

喜平治

海天丸



此の神は  
長生不老  
の神也  
其の神  
の御座り  
の御座り  
の御座り

此の如くは... 甲斐の... 月廿四日... 甲斐の... 月廿四日...

甲斐の... 月廿四日... 甲斐の... 月廿四日...

甲斐の... 月廿四日... 甲斐の... 月廿四日...

為朝

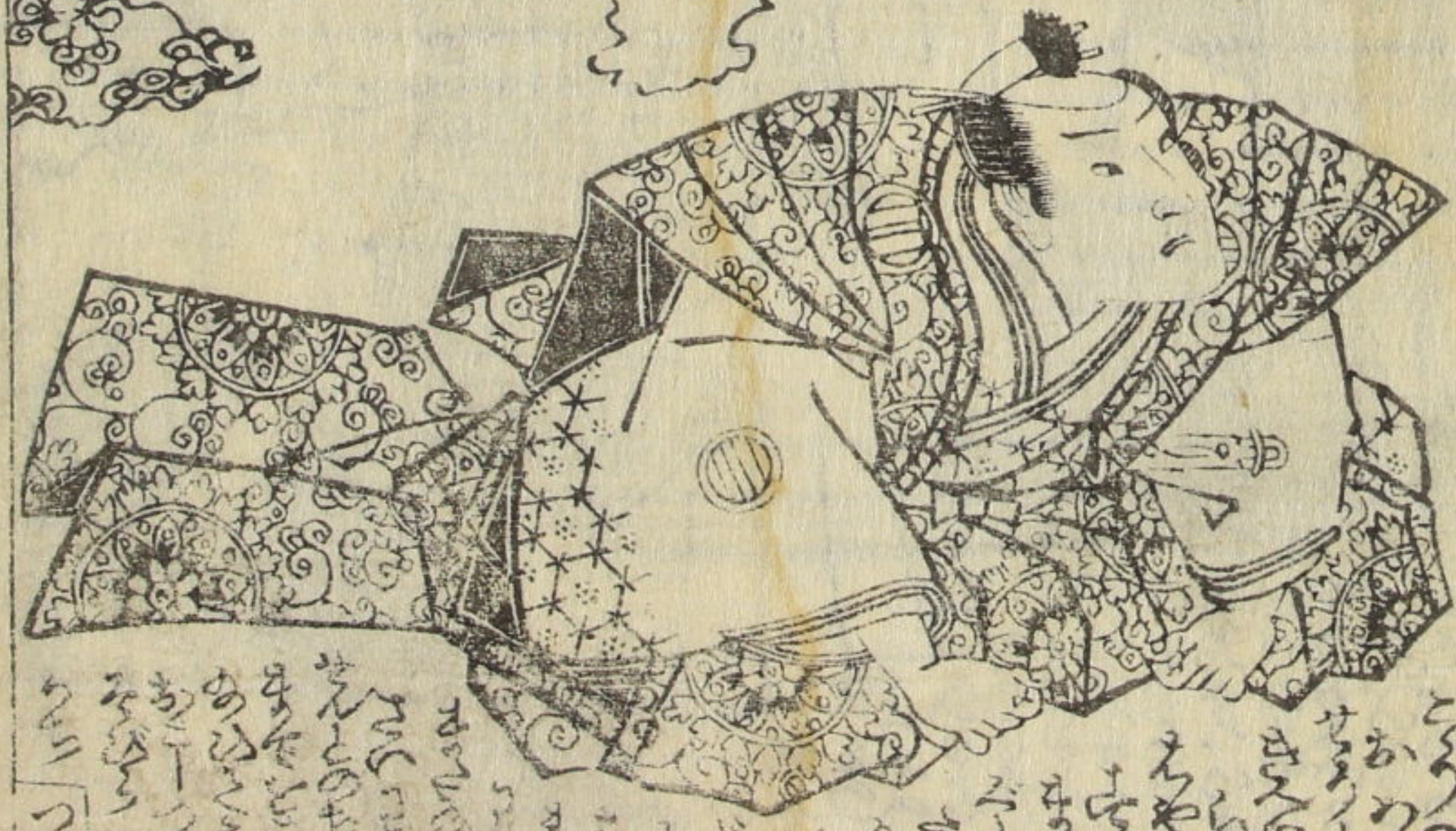


甲斐の... 月廿四日... 甲斐の... 月廿四日...

甲斐の... 月廿四日... 甲斐の... 月廿四日...

甲斐の... 月廿四日... 甲斐の... 月廿四日...

義兼



甲斐の... 月廿四日... 甲斐の... 月廿四日...

甲斐の... 月廿四日... 甲斐の... 月廿四日...

甲斐の... 月廿四日... 甲斐の... 月廿四日...











